

# 政策記入表

提出者： 田中 甲

重要政策（優先順位の高い順に3つ）

第1優先 政策の内容	情報公開と徹底した更なる行財政改革		
期限：(目途)	就任後すぐ	財源：	
背景 予算 手段 数値目標 など	<p><b>【市長としての姿勢】</b> 市政改革を行っていく最初の行動として、市長給与を大幅に削減していきたい。その財源は事業資金としては微々たる金額だが、市川市民に対する姿勢として、市政改革を高めていく機運をつくる第一歩としたい。</p> <p><b>【情報公開】</b> 情報公開は「民主主義の1丁目1番地」といわれているが、政治の透明化、信頼回復につながる大切なこと。国政で問題となっている第2の「森友、加計学園」問題を起こさないためにも常に情報公開を心がけていくことを市職員共々、慣習化していきたい。</p> <p><b>【受益者負担】</b> すべての問題を市に頼るのではなく、「自分たちの地域はまずは自分たちで良くしていく」という前提に立ち、受益者負担の原則に則り、アウトソーシング（民間活力利用）なども模索していく。</p> <p><b>【市の事業】</b> これから開発が計画されている事業、調整区域を変更し用途地域化していく事業など財源を生み出す可能性のあるテーマでは一部の人たちによる利権の奪い合いは絶対にあってはならない。財源として多くの市民の福祉や教育に充てる形を考えていく。たくさんのテーマがあるが、一つひとつ解決していく姿勢こそ、行政改革を推進していく流れに他ならない。</p>		
第2優先 政策の内容	災害を想定し徹底した人命救済システム		
期限：(目途)	至急～	財源：	国と千葉県からの補助金
背景 予算 手段 数値目標 など	<p>例えば地震などの大災害の場合、津波、火災、家屋の倒壊、液化化現象など、速やかに避難を要することとなる。発生（後）72時間を超えると生存可能性が低くなることから、その3日間に行政として何を行い、何を判断すべきかを常にシュミレーションし、市の職員、地域組織、社会福祉協議会、様々な災害支援団体、ボランティア団体、自衛隊などと連携し、常に想定訓練を行いたい。</p> <p>また、市川市では震災時、家屋の倒壊や焼失により日常生活を営むことが困難な方に対し、最低限の食糧や生活必需品等を提供できるよう、防災倉庫や市立小中学校の余裕教室等に、概ね1000人分を基準として備蓄をすすめていると聞いているがさらに企業、団体にも備蓄をすすめていくように呼びかけていきたい。</p> <p>市川市では「小学校区防災拠点構想」において小学校ごとに自主防災組織や自治町会、PTAなどの方で組織する拠点協議会を通じ、顔が見える関係づくりを行っている。応急対策活動の中でも中心となる避難所運営や避難生活支援が、拠点協議会による日常からの計画づくりや訓練を通じ、災害時により円滑に機能することを更に強化し、すすめていきたい。</p>		

## 政策記入表

提出者： 田中 甲

第3 優先 政策の内容	総合交通体系の整備 (京成線の立体化)		
期限：(目途)	4 年以内に計画決定をめざす	財源：	国土交通省、千葉県など
背景 予算 手段 数値目標 など	<p>京成線の立体化は事業費の確保や千葉県、京成電鉄、市民意向の方向性をまとめることが難しく、事業の具体化には至っていない状況だと聞いている。</p> <p>市川市の取り組みでは外環道路、都市計画道路 3・4・18 号、木下街道の 3 路線による京成本線のアンダーパス化が進められているが、京成本線の立体化は事故をなくすためにも渋滞緩和のためにも、他に優先してすすめていきたい。</p> <p>国や千葉県との折衝を積極的に行っていきたい。</p>		